

私は、約3週間にわたる高校での教育実習を通して、教員という仕事のやりがいや責任の重さ、そして日々の努力の大切さを実感しました。最初は緊張と不安の連続でしたが、生徒たちと接する中で少しずつ自分の指導に対する手応えを感じられるようになりました。また指導教諭の先生をはじめ、多くの教員の方にサポートしていただき、多くのアドバイスを吸収してどんどん自分が成長しているという実感を得られるようになりました。

英語の授業では、生徒の興味を引きつける工夫や、理解度に応じた指導の重要性を学びました。まずはさまざまな英語科の先生の授業見学を行い、今まで自分が模擬授業などで行ってきた授業や作成した指導案の改善点を探し、2週目から始まる授業に向けて研究を進めました。2週目からは授業を観察するだけでなく、自分で指導案を作成し、実際に教壇に立つことで、計画通りに進まない授業の難しさや、生徒の反応に柔軟に対応する力の必要性を痛感しました。また、発音指導やリスニング練習、グループ活動など、実際の指導方法を経験することで、自分の未熟さと同時に、今後の成長の可能性も感じました。

さらに、授業以外の場面、たとえば朝のホームルーム、掃除、部活動、特別活動などでの生徒とのふれあいを通して、教師という存在が学習面だけでなく、生徒の生活全体に関わる重要な役割を果たしていることを改めて認識しました。実際、私は文化祭の出し物決めに立ち会い、生徒のサポートをしましたが、どこまでサポートしどこから生徒に任せると、そのようなバランスが難しいと感じました。しかし、生徒が何か質問をしてくれたり、頼ってくれる瞬間があると、自分はここにいる意味があるという実感が湧き、嬉しくもなりました。日々の積み重ねや信頼関係の構築が、教員としての指導力につながることを学びました。

この教育実習は、教育を目指す自分の将来にとって非常に貴重な経験となりました。今まで教育をいう立場で学校現場を見たことがなく、生徒としての学校しか知りませんでしたが、生徒が真面目に授業を聞いてくれる姿、質問してくれる姿勢、また教員同士での情報共有やコミュニケーションなど、その全ての経験から教員という仕事の素晴らしさ、また重要性を実感する機会となりました。今後は今回の学びを生かし、より良い英語教員を目指してまずは教員採用試験、また自身の英語力向上のための勉強をするなど、努力を続けていきたいと思います。